

press release

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

千葉市

国立大学法人 千葉大学

2025 年 7 月 16 日

PRESS-25-31

千葉市民の肥満および肥満症実態調査

肥満および肥満症に対する正しい理解の欠如が効果的な取り組みを阻む一因となることが示される

―千葉市民の肥満症リスク解消のポイントは、肥満および肥満症に対する正しい理解を広めることで効果的な生活習慣の改善や適切な治療につなげること―

- 肥満と肥満症が異なることを知っている人は 59.0%。ただし、大半の 42.1%が聞いたことがあるレベル。
- 肥満症の内容を理解している人は 20.9%にとどまり、「内容まで詳しく知っている」人にいたっては、医療従事者^{※1}でもわずか 11.4%。
- 肥満の人に対する印象は「運動不足である」45.5%、「食生活や生活習慣が乱れている」40.0%、「自己責任」28.0%とネガティブなイメージが上位を占め、「病気なのかもしれないと思う」は 21.8%、「医療機関での治療をおすすめしたい」は 10.3%に留まるなどスティグマ（社会的な偏見）が浮き彫りに。
- 肥満症の疑いがある人や肥満症/肥満の自覚がある人でも、肥満は「自己責任」と考える人がそれぞれ 29.9%、33.1%、肥満の人に対して「だらしない、怠惰である」という印象を持つ人はそれぞれ 23.3%、23.0%と、セルフスティグマ（自分自身に対する偏見）があることが伺える。

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社（代表取締役社長：キャスパー ブッカ マイルヴァン、本社：東京都千代田区）は、千葉市在住の 20～70 代の男女 2,400 名を対象に、肥満および肥満症についての実態調査を実施いたしました。本調査は、2024 年 10 月に締結した「千葉市、千葉大学及びノボ ノルディスク ファーマ株式会社の肥満及び肥満症対策に関する連携協定」（以下「肥満及び肥満症対策に関する連携協定」）の活動推進に向け、千葉市（市長：神谷 俊一、千葉県千葉市）および国立大学法人千葉大学（学長：横手 幸太郎、千葉県千葉市、以下「千葉大学」）協力のもと調査項目を作成し、市民の肥満および肥満症についての意識・行動の現状と課題を把握するために実施したものです。

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社が調査結果を分析したところ、肥満基準の一つ^{※2}である BMI（体格指数）が 25 以上の人の 86.0%が「太っている」と自覚し、うち 73.6%が自身の体型による健康面での問題意識を持っていることがわかりました。肥満の原因は自身の生活習慣だけではなく遺伝や環境・社会的要素など、さまざまな要因があるとされていますが、自身や家族の肥満について悩みを持っている人でも医師に相談することに前向きな人は 31.0%と低く、理由として「相談するほどの肥満だと思っていないから」が 43.4%と最も高いほか、「肥満は自己責任だと思うから」が 27.6%と自身で解決すべき問題との意識が伺える結果となっています。肥満に対する印象でも「運動不足である」45.5%、「食生活や生活習慣が乱れている」40.0%、「自己責任である」28.0%など上位 3 つが自身の努力や管理の問題に終始するものが占めるなど、肥満への理解度の低さからくるスティグマ（社会的な偏見）の存在は明らかです。

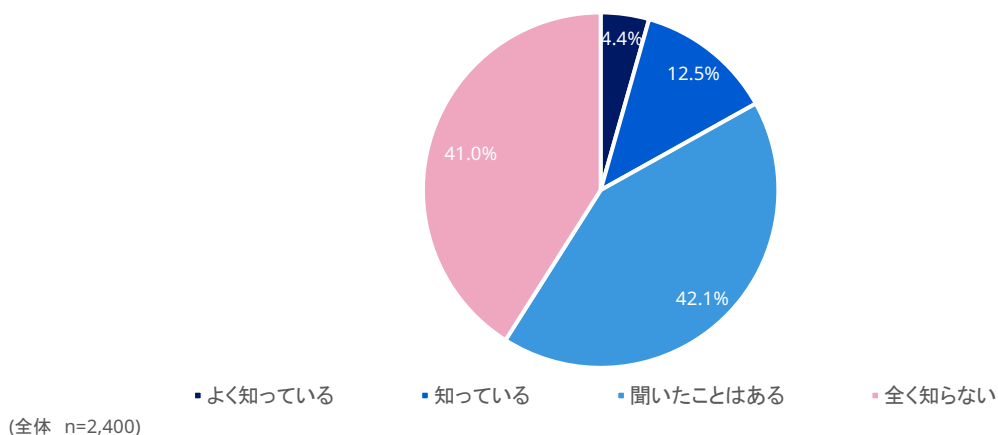
※1 医師（歯科医を除く）、薬剤師、看護師・准看護師、保健師、管理栄養士・栄養士、その他医療従事者のいずれかに該当する人。

※2 日本では、脂肪組織に脂肪が過剰に蓄積した状態で、体格指数（BMI）25 以上のものが「肥満」と定義されています。

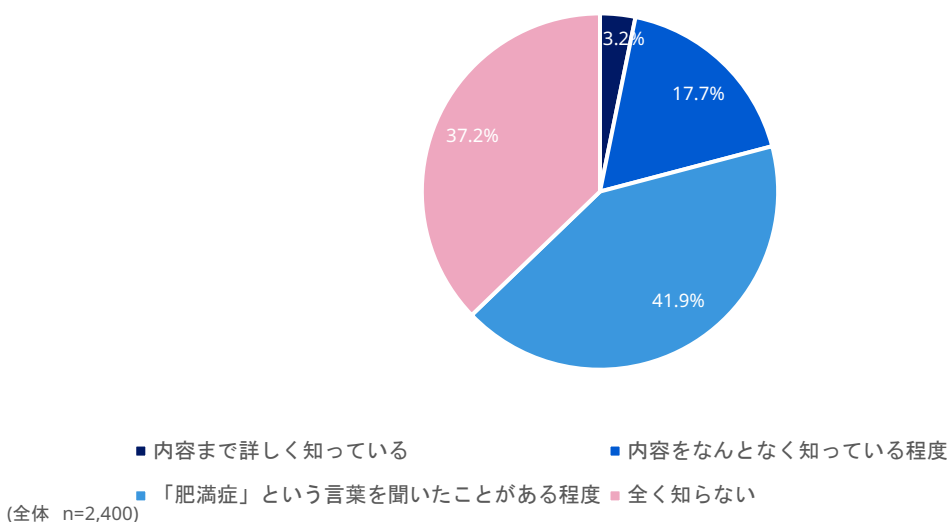
肥満に関連する健康障害は 200 以上と多岐にわたり、健康寿命や生活の質 (QOL) が低下する一因となっています^{1,2}。肥満症は、長期的な医学的管理を必要とする慢性疾患です。「肥満及び肥満症対策に関する連携協定」では、肥満予防の正しい知識の普及や肥満症の疾患認知と理解を促進する活動を検討するワークショップを実施し、肥満および肥満症を啓発するためのスローガンとロゴを開発しました。また、本連携協定のプロジェクト名を「千葉市 肥満と肥満症ほっとかない！プロジェクト」と決めました。このスローガンとロゴのもと、今後、本調査結果を参考に、肥満予防のための生活習慣改善に向けた環境づくりや、肥満症の認知向上およびスティグマ (社会的な偏見) の解消を図ることで、肥満および肥満症に悩む市民一人ひとりが対策に前向きになれる千葉市を作っていきたいと考えています。

千葉市、千葉大学およびノボ ノルディスク ファーマ株式会社は、肥満の予防と肥満症の治療を健康寿命の延伸のために取り組むべき重要な課題と捉え、官民学連携を通じて肥満および肥満症対策を推進するための環境を整備し、千葉市がより健康な社会を実現するモデル都市になることを目指して、今後ともさまざまな施策を実施してまいります。

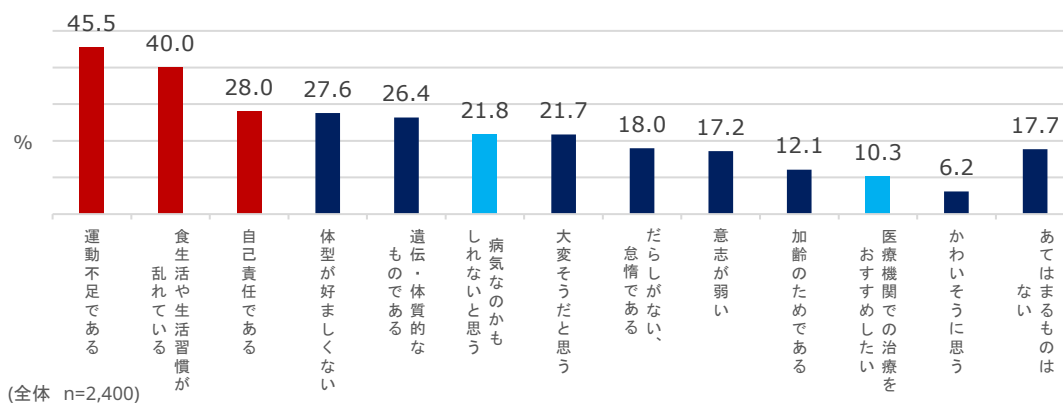
Q: あなたは「肥満」と「肥満症」は違うということをご存じですか。



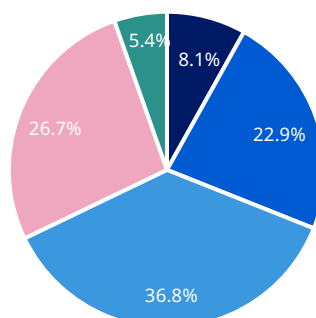
Q: あなたは「肥満症」の内容をご存じでしたか。



Q: あなたは、「肥満の人」に対して、どのような印象をお持ちですか。
あてはまるものをすべてお選びください。



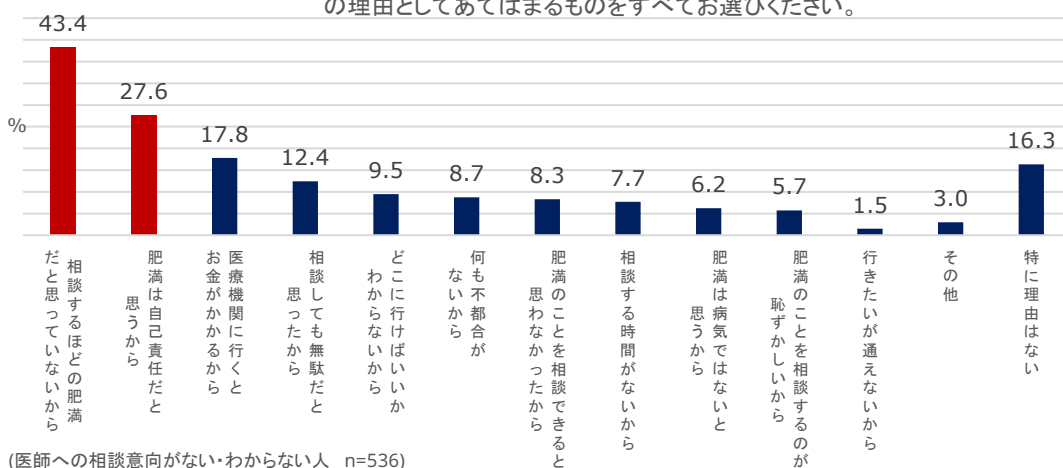
Q: あなたは、ご自身や配偶者・同居のお子様／親の「肥満」の悩みについて、病院に行ったり、医師に相談したいと思いますか。



■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない

(自分自身または同居の家族が太っていることを悩んでおり自分自身は肥満症で現在通院していない人 n=777)

Q: あなたは、ご自身や配偶者・同居のお子様／親の「肥満」について、病院に行き、医師に相談したいかに対し、「あまりそう思わない」「そう思わない」「わからない」とお答えになりました。その理由としてあてはまるものをすべてお選びください。



【調査概要】

- 調査手法: インターネット調査
- 調査対象: 千葉市民 (市内在住) 男女 20~70 代
- 調査時期: 2025 年 3 月 6 日 (木)~ 2025 年 3 月 9 日 (日)
- サンプル数:

	男性	女性	合計
20 代	182	175	357
30 代	183	169	352
40 代	229	217	446
50 代	267	250	517
60 代	175	169	344
70 代	176	207	383
合計	1,213	1,187	2,400

※ 回収は千葉市民の最大回収可能数にて実施したうえで、千葉市の人口構成比に合わせてデータ補正したスコア (ウェイトバック値) です。

【調査結果サマリー】

※以下、調査結果サマリーでは、BMI25 以上の人々を「肥満層」と記載しています。

・肥満・肥満症の実態と自己認識

千葉市では BMI 25 以上の肥満層が 2 割近く占め、そのうち半数以上が肥満症であると推定されますが、肥満による健康上のリスクは多くが認識しながらも、肥満症で通院・治療している人はわずか 5.4%と非常に少ない現状にありました。

- ◇ BMI 25 以上の肥満層は 17.9%。BMI 35 以上の高度肥満層は 1.0%。
- ◇ 肥満は女性よりも男性の方が多く、50 代を中心に 30-60 代で出現率が高い。
- ◇ 肥満層の 53.2% (全体の 9.5%) が、合併症があり肥満症であると推定される。
- ◇ 肥満症で通院・治療をしている人は全体の 5.4%。
- ◇ 肥満層のうち 73.8%は健康上の問題意識あり。
- ◇ 体型についての悩みは、男性よりも女性のほうが顕在化しやすい。
- ◇ BMI 標準層でも女性では 8 割程度の人が体型に悩んでいる。

・肥満・肥満症に対する理解

肥満と肥満症が違うことについては、多くが「聞いたことがある」程度で、肥満症の内容まで理解している人は少なく、医療従事者でも詳しく知る人は 1 割ほどでした。肥満に対しては自己責任と考える人が多く、スティグマ (社会的な偏見) の存在が明らかとなりました。

- ◇ 肥満と肥満症が違うことを知っている人は「聞いたことはある」の 42.1%を入れても 59.0%。
- ◇ 肥満症の内容を理解している人は 20.9%。詳しく知っている人は、医療従事者でも 11.4%どまり。
- ◇ 肥満症の疑いがある人のうち、肥満症の自覚があるのは 48.7%と約半数。
- ◇ 肥満へのイメージの上位 3 つを占めるのは「運動不足である」45.5%、「食生活や生活習慣が乱れている」40.0%、「自己責任である」28.0%とネガティブなイメージ。「病気なのかもしれないと思う」は 21.8%、「医療機関での治療をおすすめしたい」は 10.3%に留まる。
- ◇ 肥満症の疑いがある人や肥満症/肥満の自覚がある人でも、肥満は「自己責任」と考える人がそれぞれ 29.9%、33.1%、肥満の人に対して「だらしない、怠惰である」という印象を持つ人はそれぞれ 23.3%、23.0%と、セルフスティグマ (自分自身に対する偏見) があることが伺える。

・肥満と健康に対する意識・行動

肥満層では健康に対する意識・行動がやや少ない傾向が見て取れました。肥満層や肥満症の疑いがある人が病気や治療に関する情報を入手する重要なタッチポイントは「かかりつけ医」や「健康診断」でした。

- ◇ 肥満層はそうでない人よりも、健康に対する意識・行動が全般的にやや少ない傾向にある。「健康に対して、日ごろから考えたり行動をしたりしている」(全体:59.9%、肥満層:53.1%)、「健康を改善したりより良くするために、時間や労力をかけてもよい」(全体:57.2%、肥満層:51.3%)、「健康を改善したりより良くするために、お金をかけてもよい」(全体:48.2%、肥満層:42.0%)
- ◇ 女性よりも男性のほうが、健康に対する意識・行動が全般的にやや少ない傾向にある。
- ◇ 肥満層・肥満症疑いあり層は、かかりつけ医 (肥満層:32.1%、肥満症疑いあり層:49.4%) や健康診断 (肥満層:19.3%、肥満症疑いあり層:25.6%) が病気や治療に関する情報を入手する重要なタッチポイントになっている。
- ◇ 「十分な睡眠」(47.9%)、「栄養バランスが取れた食事」(45.0%)、「自宅でできる運動」(38.0%) といった自助的な対処方法の実践度はやや高い。

・肥満・肥満症の治療

自身や家族の肥満の悩みについて、病院に行ったり、医師に相談したいかの問いに対して、肥満症の疑いがある人でも、約半数が「医師に相談したいとは思っていない」と回答しました。主な理由として「自分は相談するほどの肥満ではないと思っている」、「肥満は自己責任だと考えている」といった声が多く、これらの背景には肥満に対する医学的理解の不足や、スティグマ (社会的な偏見) が影響していることが伺えます。

- ◇ 自身や家族の肥満について悩みを持っている層のうち、肥満の悩みに関する医師への相談意向は「そう思う」(相談意向あり) が全体では31.0%。肥満層で39.4%、肥満症疑いあり層で51.2%、肥満症/肥満の自覚あり層でも42.4%に留まる。
- ◇ 肥満症疑いあり層および肥満症/肥満の自覚あり層でも、相談意向について「あまりそう思わない」がともに36.8%、「そう思わない」がそれぞれ10.2%、17.4%で、全体のおよそ5割を占める。
- ◇ 相談意向が低い理由は「相談するほどの肥満だと思っていないから」が最も多く43.4%。次いで「肥満は自己責任だと思うから」(27.6%)が多い。
- ◇ 肥満症/肥満の自覚あり層のうち、「治療を受けている/受けたことがある」人は24.2%、「肥満症と医師に診断されたことはあるが治療を受けたことはない」が1.6%。

■ 「千葉市、千葉大学及びノボ ノルディスク ファーマ株式会社の肥満及び肥満症対策に関する連携協定」について

本協定では、千葉市、国立大学法人千葉大学、ノボ ノルディスク ファーマ株式会社が、官民学連携を通じて、独自の肥満および肥満症対策に関するプロジェクトを展開しています。下記5つの連携事項に沿って、定量的・定性的な調査から課題を特定し、各種媒体を利用した疾患啓発活動、千葉市が有するデータベースの解析、特定健診・特定保健指導の枠組における肥満症リスクの特定とフォローアップ、そして子どもの健康応援などを行っています。

- (1) 地域住民、保健医療関係者の肥満及び肥満症に関する理解向上に資する事項
- (2) 千葉市国民健康保険被保険者の肥満及びその関連疾患の分析に関する事項
- (3) 特定健康診査・特定保健指導における肥満及び肥満症に関する事項
- (4) 子どもの健康応援に関する事項
- (5) その他、肥満及び肥満症対策に資する事項

■ 「千葉市、千葉大学及びノボ ノルディスク ファーマ株式会社の肥満及び肥満症対策に関する連携協定」
におけるプロジェクト名、スローガン、ロゴ

- プロジェクト名:「千葉市 肥満と肥満症ほっとかない！プロジェクト」

肥満・肥満症は、当事者ひとりの問題ではなく、みんなで、地域で取り組むべきテーマです。私たちは、肥満や肥満症に関する理解向上や、生活習慣の改善を促すことで、肥満対策を含む健康づくりを推進したいと考えています。すでに治療が必要な肥満症の方は、医療機関を受診し、適切な治療を受けていただきたいと考えます。小児から成人まで、予防から治療まで。千葉市がより健康な都市になるために、そこに住む人々を誰一人「ほっとかない！」、そんな千葉市を目指したいという思いをプロジェクト名に込めました。

- スローガン:「みんなで気づく。みんなで動く。」

肥満・肥満症を予防するための食事や運動の大切さに気づく。肥満と肥満症が必ずしも「自己責任」ではないことに気づく。自分の中にあった色々な思い込みに気づく。このプロジェクトの起点となる“気づき”によって、みんなで自分ごと化をして、みんなで一緒に動いていこうという思いをスローガンに込めました。

- ロゴ:

気づきをシンボリックに表現する“びっくりマーク”をモチーフに、「みんなで太く大きな気づきを！」というイメージを表しています。ロゴの中にプロジェクト名とスローガンを組み入れ一体化しました。カラーは、千葉市の市章の色にも使われているグリーンをベースとし、爽やかさ、すこやかさ、健康、軽やかさ、気持ちよさを感じる色にしました。



■ 千葉市ポータルサイト

千葉市の肥満および肥満症対策の取り組みを市民の皆さんに紹介するポータルサイトです。このサイトを通じて、「千葉市、千葉大学及びノボ ノルディスク ファーマ株式会社の肥満及び肥満症対策に関する連携協定」に基づくさまざまな取り組みを紹介していきます。(https://himantohimansyo.city.chiba.jp/)

■ 「TRUTH ABOUT WEIGHT 肥満症を知る」について

「TRUTH ABOUT WEIGHT 肥満症を知る」は、ノボ ノルディスク ファーマ株式会社が運営する、“肥満症を正しく理解する”をコンセプトに、肥満症とともに生きる方とご家族、および肥満改善を目指す方々をサポートするウェブサイトです。肥満症や肥満のさまざまな要因を解説する記事や、クイズとともに肥満症について学べる肥満症リテラシー検定、肥満や肥満症と生きる人々のインタビュー記事など、さまざまなコンテンツを掲載しています。(https://www.truthaboutweight.global/jp/ja.html)

■ 肥満と肥満症について³

日本では、脂肪組織に脂肪が過剰に蓄積した状態で、体格指数 (BMI) 25 以上のものが「肥満」と定義されています。「肥満症」は、肥満があり、肥満に起因ないし関連する健康障害^{※3}を合併するか、その合併が予測され、医学的に減量を必要とする病態と定義されています。

※3 肥満症の診断に必要な健康障害: 1. 耐糖能障害 (2 型糖尿病・耐糖能異常など)、2. 脂質異常症、3. 高血圧、4. 高尿酸血症・痛風、5. 冠動脈疾患、6. 脳梗塞・一過性脳虚血発作、7. 非アルコール性脂肪性肝疾患、8. 月経異常・女性不妊、9. 閉塞性睡眠時無呼吸症候群・肥満低換気症候群、10. 運動器疾患 (変形性関節症: 膝・股関節・手指関節、変形性脊椎症)、11. 肥満関連腎臓病

千葉市について

千葉市は人口 98 万人の政令指定都市。令和 3 年 (2021 年) 1 月、市政施行から 100 周年の節目を迎え、令和 8 年 (2026 年) には千葉開府 900 年を迎えようとしています。

これからの 100 年先の未来を見据え、市民・団体・企業・大学等を含む教育機関、そして行政など街に関係する多様な主体が共に手を携えながら、私たちの千葉市をより豊かなものとしていくためのまちづくりを進めているところです。

日本人の平均寿命は、2050 年には女性は 90 歳を超えると推計されています。千葉市においても令和 7 年 3 月末時点で 100 歳以上の高齢者は 400 人を超え 100 歳まで生きることが珍しくない社会となっていきます。しかし長くなった人生を豊かに生きるためには健康寿命を延伸させることが重要です。そのため、千葉市では健康寿命の延伸と不健康期間の短縮に向けて、「疾病の発症予防・重症化予防に重点をおいた健康づくりの施策」と「成育過程にある者及びその保護者等が健やかに暮らせる社会づくりの施策」を総合的・効果的に推進するため、市民や行政・関係機関・団体等が一体となって取り組むための行動計画として、「健やか未来都市ちばプラン (第 3 次健康増進計画)」を策定しました。

詳細はウェブサイトをご覧ください。

(<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/kenkofukushi/suishin/sukoyakamiraitoshichibaplan.html>)

国立大学法人千葉大学について

千葉大学は、約 150 年前に設立された千葉師範学校や共立病院などを前身として、昭和 24 年に 5 学部から成る新制国立大学として設立されました。現在では、11 学部、19 大学院を有し、学部の枠を超えた幅広い教養と高度の専門性を習得できるアカデミア環境を整備しています。

「つねに、より高きものをめざして」の理念のもと、2025 年にはあらたに「YOKOTE VISION」を策定し、「生命、環境、そして社会へ。知の共鳴で未来を拓く千葉大学」を主題に掲げ、すべての教職員、学生が一丸となり、目指す姿の実現に向けて取り組んでいます。

詳細はウェブサイトをご覧ください。(<https://www.chiba-u.ac.jp/>)

ノボ ノルディスクについて

ノボ ノルディスクは、1923 年創立のデンマークに本社を置く世界有数のヘルスケア企業です。私たちのパーパスは、糖尿病で培った知識や経験を基に、変革を推進し深刻な慢性疾患を克服することです。その目的達成に向け、科学的革新を見出し、医薬品へのアクセスを拡大するとともに、病気の予防ならびに最終的には根治を目指して取り組んでいます。ノボ ノルディスクは現在 80 カ国に約 77,400 人の社員を擁し、製品は約 170 カ国で販売されています。日本法人のノボ ノルディスク ファーマ株式会社は 1980 年に設立されました。詳細はウェブサイトをご覧ください。

(www.novonordisk.co.jp)

参照資料

1. Wang YC, et al. Lancet. 2011; 378(9793): 815-25.
2. Yuen M, et al. A systematic review and evaluation of current evidence reveals 236 obesity-associated disorders. New Orleans: The Obesity Society. 2016.
3. 日本肥満学会:「肥満症診療ガイドライン 2022」、日本肥満学会、ライフサイエンス出版、東京、2022

お問い合わせ先

- ・ ノボ ノルディスク ファーマ株式会社 広報部 電話: 03-6266-1303、Email: pressnnpl@novonordisk.com
- ・ 千葉市 【協定締結全般に関すること】 総合政策局未来都市戦略部スマートシティ推進課
電話: 043-245-5427、Email: smartcity.POF@city.chiba.lg.jp
【周知啓発に関すること】 保健福祉局健康福祉部健康推進課

お問い合わせ先

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

100-0005
東京都千代田区丸の内 2-1-1
明治安田生命ビル

Tel: 03-6266-1303
Email: pressnnpl@novonordisk.com

ウェブサイト:
www.novonordisk.co.jp
www.novonordisk.com

電話: 043-245-5226、Email: suishin.HWH@city.chiba.lg.jp

【調査研究・健診に関すること】 保健福祉局健康福祉部健康支援課

電話: 043-238-9922、Email: shien.HWH@city.chiba.lg.jp

【子どもの健康応援に関すること】 教育委員会事務局学校教育部保健体育課

電話: 043-245-5941、Email: hokentaiiku.EDS@city.chiba.lg.jp

- 千葉大学 広報室 電話: 043-290-2018、Email: koho-press@chiba-u.jp

本資料は、重工業研究会、本町記者会、厚生労働記者会、厚生日比谷記者クラブ、千葉市政記者会、千葉県政記者クラブへ配布させていただきます。